P-693 中国における女性尿道症候群患者の膀胱組織所見

中国湖北省荊沙市第一病院¹⁾、新潟大学²⁾、会津若松竹田総合³⁾
程 躍¹⁾、潘 暉¹⁾、鄭 江¹⁾、郷 秀人²⁾、谷川俊貴²⁾、武田正之²⁾、
高橋公太²⁾、玉木 信³⁾、齊藤 稔³⁾

【目的】女性尿道症候群とは、膀胱刺激症状を主訴とし、膿尿・細菌尿を伴わないものと定義されている (Stevens, 1923) が、中国人女性の膀胱組織像に関する報告は少ない。今回、中国における女性尿道症候群の膀胱組織像について検討したので報告する。

【対象・方法】1990年10月より1995年4月までに中国湖北省荊沙市第一病院泌尿器科を受診した女性尿道症候群患者のうち58例を対象とした。年齢は18才から63才であり、30才台と40才台にピークを認めた。これらの患者に対して内視鏡下に膀胱粘膜生検術を行い、通常のH&E染色による病理組織学的検討を行った。

【結果】全例で病理組織学的に異常所見が認められ、この病理所見は次の6種類に大別された。1) 慢性炎症；これはすべての患者に認められた。2) 扁平上皮化生；4例 (6.9%) に見られた。3) 腺性嚢胞性膀胱炎；9例 (15.52%) に見られた。Brunn's nestを伴っていた。4) 乳頭様増殖；4例 (6.9%) に見られた。5) ポリ-プ様増殖；2例 (3.45%) に見られた。6) 腸粘膜様化生；1例 (1.72%) に見られた。

【結論および考察】女性尿道症候群患者の膀胱粘膜には少なくとも慢性炎症を伴う病理学的変化を認め、また約16%でBrunn's nestを伴う腺性嚢胞性膀胱炎を認めたことから、中国におけるこの患者に対する膀胱粘膜病理検査の必要性を認めざるを得ない。この慢性炎症の原因については諸説があるが、今後の検討を要する。

P-694 先天的腎形成不全マウスの解析

京都大学医学部泌尿器科¹⁾、同 病態生物医学²⁾、埼玉県立がんセンター³⁾
賀本敏行¹⁾、志佐 端³⁾、山田義博²⁾、小川 修¹⁾、吉田 修¹⁾、日合 弘²⁾

ヒトにおける先天的腎形成不全は、両側腎を欠損するPotter症候群をはじめ、数多くの報告例がある。その頻度はおよそ1000人に1人と先天異常の中では比較的高いが、その発生機構はほとんど解明されていない。我々のもつddYマウスから近交系化されたDDS/Kマウスは、約60%の個体に片側あるいは両側の腎欠損をみる先天的腎形成不全モデルマウスである。

【目的・方法】DDS/Kマウスの腎形成不全の病態ならびにその責任遺伝子を、健常腎(両腎)マウス(NFS系、A/J/Kyo系)との交配実験ならびにマイクロサテライト法を用いた連鎖解析により解明する。

【結果・考察】1) 出生直後の新生仔の観察から、近交系においても両腎、単腎(左・右)、無腎の3種類の表現型をとり、両腎：単腎：無腎の頻度は約4：5：1であった。2) 約250個体F1世代の観察からは腎形成不全はみられなかった。3) DDS/Kへの退交配世代では約15%に腎の形成不全をみた。4) マイクロサテライト法を用いた連鎖解析の結果、NFS系との交配では責任遺伝子のうち一つがマウス染色体2番にマッピングされた。以上の結果から、この形質は常染色体劣性の遺伝様式をとり、複数の遺伝子あるいは、責任遺伝子以外の宿主側因子の関与が推察された。腎発生には後腎組織と尿管芽との細胞間相互作用が必要である。今回、胎生期における腎形成の観察結果もあわせて報告する予定である。